

## 会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回山形市立図書館協議会
日 時	令和7年2月12日(水) 午後3時～午後4時40分
開 催 場 所	山形市立図書館2階集会室
主 催	教育委員会図書館
出 席 者	<p>【図書館協議会委員】            伊藤弘昭委員長、井上幸弘副委員長、前田洋光委員、小鹿泰子委員、            村形弘也委員、渡邊さおり委員、大場恵子委員            (欠席：高梨明恵委員、沖津卓也委員、山口由美委員、佐々木僚委員、リサ・ソマーズ委員)</p> <p>【教育委員会】            金沢教育長、佐藤社会教育青少年課長</p> <p>【事務局】            阿部館長、齋藤副館長、池田副館長(兼)管理係長、            岸野副館長(兼)企画運営係長、峯田図書サービス係長</p>
議 題	<p>報告 令和6年度図書館事業について(中間報告)            りぶ活 yamagata について            令和6年度利用者アンケートの概要について</p> <p>協議 令和7年度図書館事業(案)について            令和7年度「山形市児童・生徒 読書全力応援プラン」(案)について</p>
傍 聴 者	なし
審 議 経 過	下記のとおり
資 料 名	<p>次第            山形市立図書館協議会委員名簿            【資料1】令和6年度 山形市立図書館事業について(中間報告)            【資料1別紙】令和6年度講座・催物一覧            【資料2】「りぶ活yamagata」について            【資料3】令和6年度利用者アンケートの概要 ※当日配布            【資料4】令和7年度図書館事業(案)(予定を含む)            【資料4別紙】令和7年度図書館の運営方針(案)            【資料5】令和7年度「山形市児童・生徒 読書全力応援プラン」(案) ※当日配布            【資料5別紙】新団体貸出し(仮称)「学校お届け応援隊」について ※当日配布            SDGs 関連資料            関係法令抜粋            令和6年度第2回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答 ※当日配布</p>
そ の 他	次回の開催日：令和7年6月
作 成 者	企画運営係 主事 齋藤茜

### 【 次 第 】

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告
  - (1) 令和6年度図書館事業について(中間報告)
  - (2) りぶ活 yamagata について
  - (3) 令和6年度利用者アンケートの概要について
- 5 協議
  - (1) 令和7年度図書館事業(案)について

(2) 令和7年度「山形市児童・生徒 読書全力応援プラン」(案)について

6 その他

7 閉会

報告及び協議については、山形市立図書館条例施行規則第19条の規定により、伊藤弘昭委員長が議長となり、以下のとおり議事を行った。

議長	それでは、次第5の(1)「令和6年度図書館事業について」、事務局からご説明をお願いします。
事務局	それでは、資料1及び資料1別紙に基づき「令和6年度図書館事業」についてご報告します。  ( 資料1・資料1別紙に基づき報告 )  報告は以上です。 事前にご質問・ご意見を頂戴していますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。  (令和6年度第2回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答に基づき回答、説明。)  事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。
議長	それでは委員の皆様、ただいまの回答に対して追加の質問や補足説明等がありましたらよろしくをお願いします。
村形委員	事前に質問のあった5番に関連してですが、中間報告の資料1を見ますと、高等学校についても探究型学習の支援をしたという記載があるのですが、具体的にどのような支援を行ったのか教えていただきたい。
事務局	今年度は、惺山高校や、霞城学園など、生徒さんから直接ご連絡をいただきまして、図書館にその課題について調べたいことを口頭や質問表をいただいております。
村形委員	個別に来たら対応するような感じですか。
事務局	そうです。その後生徒さんは学校に持ち帰りまして、そのあとも発表に向けてさらに、課題を精査されて発表につなげていらっしゃるそうです。
村形委員	まとまった組織としての要望にこたえたというわけではないのですか。
事務局	あくまでも個人とかグループで活動されているようで、個別に対応させていただいたというところです。 令和6年末に東海大学山形高等学校が、探究学習として、蔵王駅に山形市立図書館の本のひろばを参考にして、学校の図書委員さんを中心に本棚を設置されたということで、現場の方も見させていただいております。そういった面でも今年度は様々高校生や高等学校さんの支援や連携もできているという状況です。
議長	ありがとうございます。自分にとって地元の駅ですが、知りませんでした。車を使っているとなかなか。
事務局	東海大学山形高等学校の本棚は12月に、蔵王駅待合室に設置されています。
議長	今のことにしまして、学校における課題学習の支援において、市立図書館はやはり小中学校がメインになると思いますが、高校に対しても「依頼や要望があれば支援していますよ」ということがわかるような形で実施していますか。それとも向こうから来たときに初めて対応という方法でしょうか。
事務局	現在、図書館側から高等学校の方に特別に周知しているということはない

	状況ですけれども、今後については様々な機会を利用して高校との連携に努めていきたいと思えます。図書館の館内ではただいま説明した探究学習の他に、POPを作っていたいただいて、おススメの本などを市内の高校にご紹介いただいています。現在は山形商業高校の生徒が作成したものを玄関前に設置しておりますが、そういった形でも連携しているところがございます。
議長	積極的に連携なさっているのは資料でも伺えます。利用者層のところでは若者世代のあたりが少ないようであれば、直接の図書館利用には繋がらないかもしれませんが、若い人達が自然に図書館と接点を持つ、1つのいい機会にもなるのではないのでしょうか。学校と連携できる場所を若者に知ってもらうための機会の1つという部分でもPRすると、よろしいんじゃないでしょうか。
議長	議長からで申し訳ないのですが、今の事前質問の電子書籍サービスに関して、もともと広域連携を前提として進められているそうですが、交付金の予算申請はどうなっているのですか。市立図書館単独でというわけではなく、広域連携を考えている自治体もありますし、交付金の対象がよくわからないのですが。
事務局	こちらの交付金の対象が初年度に係る経費のみ対象ということになるのですが、令和7年度につきましては、広域連携を目指したところではあります。結果的に初年度は山形市単独での導入を予定し、したがって単独での交付申請となりました。ただ、令和8年度以降も広域連携の窓口は開けたまま手を挙げてくださる市町があれば、そのあとでも連携することが可能としておりますので、今後も広域連携の方は検討していきたいと思っております。
議長	まずは山形市が先行ということですか。
事務局	はい。山形市単独で先行ということになっております。
議長	できるだけ早く、若者層であればネットを活用した窓口を広げていくというのも大切だと思います。ありがとうございます。
議長	他にございますか。
村形委員	積極的に読書機会を作るということでは、今年度の活動でもすごくいいものがあるなど、感心してまして、これから2月15日、今週末にも山形ウインターデーシェアスマイルという子育てイベントで出前図書館があるみたいですが、幼少期から本に親しむ機会を作るのは大事だと思います。「コパル」とか「べにっこひろば」とか、いずれも本が備えつけのものがあるのですが、市立図書館の方でそこに加えて何か支援というものを今年度実施したのか、もしくは今後そういった考え方があるのかをお聞きしたいです。
事務局	今年度出前図書館につきましては、山形駅とコパルと市民会館という予定なのですが、なかなか貸出者数や利用者数というところにあまり繋がっていないという結果がございまして、出前図書館単独での開催については来年度以降できるかどうかを検討しているところですが、今回、今週末にあるような子育てのイベントですとか、多くのお客様がいらっしゃるイベントできっかけづくりになるような場所がありましたら、連携して出前図書館という形で実施して参りたいと思っております。
議長	なかなか、すぐ効果は上がらない取り組みもあるかとは思いますが。継続して認識を上げるなど大変でしょうし、なかなか成果が上がらないとやっつても焦りとかあるでしょうが、やっぱりある程度継続していったらいいかでしょうか。せっかく新たに始めた取り組みですので、長い目で考えていただければよろしいのではないかなと思います。
事務局	はい。ありがとうございます。
議長	それでは次に、(2)の「りぶ活 yamagata」についての報告をよろしくお願ひします。

事務局	<p>では引き続き資料2の「りぶ活 yamagata」についてご説明させていただきます。</p> <p>(資料2に基づき報告)</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございます。個人的にはものすごく意義のある取り組みではないかと思います。この取り組みに関しまして、確認したい部分や、あるいは今後このようにしたらいいのではないかなというようなアドバイス、アイデア、気づいた点や感想などおありでしたらいかがですか。井上委員は実際に参加されておりますし、いかがですか。</p>
井上委員	<p>私は、今年度2回だけの出席でしたが、5回目の11月30日に「べにっこひろば」に行きました。私たち自身もボランティアでべにっこひろばに行くのですが、その時は面白くなければ、お父さんお母さんと子どもと一緒にさっさと帰ってしまうんですね。だから1つ終わると、子どもたちがいなくなるということもあるのですが、やっぱりお姉ちゃんから絵本や紙芝居を読んでもらっているというので1人も動かなかったんですね。</p> <p>その題材は小さい子どもたちにはちょっと難しいなと思いましたが、そういう活動を中学校1年生、2年生が、知らない子どもたち、小さい子どもたちに対して実施できたのは、生徒たちにとってプラスになっただろうと思います。生徒にしてみれば、今回絵本や紙芝居をやりましたけども、もっと違う分野でこんなことしたいっていうもので、人が集まるともっといいのかなあと思いました。でもやっぱりいい企画だったかなと思います。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p>
前田委員	<p>大変いいなと思ひまして、今私はいろんなところで会議にも出ている中で思うところが、文化面での地域移行、「地域展開」という言葉に変えてますが、受け皿が運動部よりも少ないなと思っています。文化系の子どもたちもいっぱいいますので、その子どもたちが活躍できる場ということで、有効な取り組みで重要だなと思ったところです。私は昨年まで小学校の教諭をしていましたが、高学年の子どもたちが低学年に読み聞かせをするっていうのは、2学年交流ということであっても、子どもたちはお互いに先生方、保護者や市立図書館の方が話をするよりも、いつも遊んでくれる先輩が活動してくれるっていうのはとても有効だなというふうに思います。あとは読み聞かせる高学年も低学年が聞き取れるスピードを自分で考えながらになるので、相手意識も育ちますし、有効だなと思ったところです。</p> <p>単なる読み聞かせの練習の発表ということだけじゃなくて、活動の内容を見ますと、活動について話し合いをしたり、本を選んだり、ポスターを制作するなど多岐にわたって活動が組まれてるので、もともと18人募集のところ5人しかいないというところで、中学校校長会でもPRしながら、興味のある方も多くいると思いますし、知らない子どもたちもいると思うので、ぜひ継続して拡充していただければと思います。以上です。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>そうですね。意外と興味持つ子どももいるんじゃないかなと思う企画ですよね。やっぱりどうやって認知度を上げるかが課題で、あと友達から友達というふうに広げて行ってほしい。やる方にも意義があると思いますが、それを聞く子ども達相互に結構大きなニーズがあることだと思いますので、長い目で定着させれば、今度は先輩とか友達とか継続性を維持できれば安定した参加者を得られると思います。できれば長く続けていただきたい。</p> <p>この取組み、他に興味のある方いらっしゃるのではないですか。</p>
小鹿委員	<p>受け入れた方として、「べにっこひろば」で私も一緒に担当して聞かせて</p>

	<p>いただいたので、学生さんたちのドキドキ感が最初からすごく伝わってくるような状況で、みんな時間通り集まるのかなあとか、紙芝居忘れてきてしまった子もいて、いろいろありました。でも、始まると自分たちで呼び込みをして参加者を集め、会の始まりから全部自分たちでするっていうのは大人でもやっぱりドキドキするのに、中学生が自分たちだけでするっていうのはすごいことだなというふうに感じました。</p> <p>井上さんがおっしゃってくれたように、本当に聞いている子どもたちが集中していて、お姉さんたちが読んでくれるってすごくすてきなことで、私達おばちゃんがやるっていうのとは違って魅力的です。ここにお兄さんがいたらもっと楽しいんだろうなあとかいろいろ思いましたけども、やっぱり長く続いて、「りぶ活」という名前が浸透するようなどころまでいけたらいいなと思います。また、ぜひ来てください。</p>
議長	関わった方、感触としてはものすごくいい感触だったようです。
事務局	<p>皆様ありがとうございます。今年度からの事業で、りぶ活に関しては手探りから進めさせていただきました。18名募集ながら、初年度となる今年度に関しては5人ですけれども、この5人の方の内訳とは4校で、いろいろなどころから集まってもらいました。本当に初回からすぐ打ち解けており、今の中学生の適応力というか、順応性ってほんと驚いてしまいますが、思ったことを自由に発言していいよというふうな雰囲気づくりを心がけて、その通り、まずは自分たちで伸び伸びと考える自由を考えて進められたという点では、参加者数自体はもちろん、想定するよりも、少なかったんですけども、初回としては、一人一人と密接にかかわることができたという意味では、手ごたえが感じられたところでした。学校以外のところ、他の学校の生徒さんたちとの触れ合いがあるというのは、やっぱり貴重な機会なんだなと我々も実感したところでした。今年度初回ですけれども長期的に実施していきたいと思っております。</p> <p>広報面では、ぜひ来年度については周知策についても早い段階から動き出して、実施するような形で学校にはご協力いただきたいと思っております。回数を増やしてほしいというご意見もありますので、今年度を上回るような感じで、来年度も考えたいと思っております。本当にありがとうございました。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、次に資料3の「令和6年度利用者アンケートの概要について」報告をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、資料3に基づき「令和6年度利用者アンケートの概要について」ご説明いたします。</p> <p>(資料3)に基づき報告)</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
議長	ありがとうございます。何かご意見はございますか。
井上委員	<p>お客様と接触する職員の対応のところ、<b>「貸出し時、本人ですかと何回も確認もされて嫌な思いをした」</b>というのがあります。これと直接関係はないのですが、私たちボランティア団体で、人と接するときにも気をつけようと言っているのは、<b>「今日はお父さんと来たんですか」</b>などという聞いてしまうこともあるのですが、その子にはひょっとするとお父さんはいないかもしれないですし、そういうことをやめよう確認しました。また、平日の図書館に子どもがいると学校に行っていないのだろうと思うけれど、<b>「学校どうしたの」</b>とこのようなことは言わない、そういう配慮はボランティア含めて職員も大事にするべきかなと思えました。以上です。</p>
議長	他にはありますか。

議長	確認ですが、自由記述のところ「リクエストの待ち時間が長い」という点、仕方ないといえば仕方ないが、「人気のあるものは冊数を増やして対応したらどうか」というのは毎回複数意見が出てきています。現在市立図書館で複本の考え方はありますか。
事務局	目安として予約人数が10人を超えたら、1冊どこかの分館に増やす。また増えたら他の分館で増やす。最大で本館、分館の5冊となります。
議長	予約10件を目安にして複本をということですね。限られた予算の中では難しいのでしょうか。どのような対応をしているのか確認できました。ありがとうございました。
議長	以上で報告事項については終了します。 続いて、協議事項に移ります。令和7年度図書館事業についてご説明をお願いします。
事務局	それでは資料4に基づき「令和7年度図書館事業について」説明します。  (資料4)に基づき説明)  説明は以上です。
議長	ご意見のある方お願いします。
井上委員	どこにも関わらないことですが、去年の図書館大会はとてもいいものでした。作家の今村翔吾氏も講演で話をしていましたが、いろんな連携をしている中で、図書館同士の連携という点で、書店でやっている「本屋大賞」のように図書館職員が選ぶ山形県内の作家の「図書館大賞」を実施してはどうでしょうか。地元では有名でもほかの地域では知られていないような作家など、図書館同士の結びつきにもつながるのではないのでしょうか。
議長	それは、市立図書館というよりは、山形県内の図書館への提案ということによろしいですか。
村形委員	今村さんは作家に着目しおり、大会のときにご提案がありましたが、県内ではもうすでに取り組み実施しています。ただ切り口が、ある作家に着目するのではなくて、今年度は「ジャケットが素敵な本」でした。このテーマは図書館司書の皆さんから出ます。それに見合う本としてどんな本があるかなというものを県内の市町村立図書館の職員の方から提案を受けて連携しています。10年間続けてきているという実績はあるのですが、これがまだまだここにいらっしゃる方がどれだけ知ってらっしゃるかということで、PRが足りない。図書館ばかりではなくて、書店組合の方からもPRしてもらおうということで、今年度書店組合でもまたお話し合いをして、できることから始めましょうということで、話をしているところです。逆にやはり図書館側の提案ばかりじゃなくて、どのようなことを図書館に受け入れてもらったら書店側としてメリットがあるのかというようなご意見も頂戴しています。とりあえずまずできることとしては、図書館のイベント等に書店が入ってもらって、作家のフェアなどをする場合にはその作家さんの本を売ってもらうとか、そういったメリットをお互い享受できるという話し合いをちょうど始めているところです。今年度の当初でも県内の図書館で館長さんたちをメンバーにしたような理事会と総会の中で、いろんな取り組みをこれから進めていきたいと思います。もう少しPRがんばります。
議長	せっかくやっているのであれば、もう少し認知度が上がるといいですね。それでは、次に「山形市児童・生徒 読書全力応援プラン」についてご説明をお願いします。
事務局	それでは、資料5に基づき「山形市児童・生徒 読書全力応援プラン(案)について」説明します。

	<p>(資料5)に基づき説明)</p> <p>説明は以上です。</p>
議長	では、なにかご意見ございますか。
村形委員	いい取組だと思います。取組内容の(1)のイ)の、タブレットを利用し、児童生徒が図書館のホームページから検索予約して借りることができるというところについて、学校の団体貸出しとして貸出しを行うということは、つまりリクエストした生徒さんは、図書館まで足を運ばないで図書館の方から学校に本を届けてくれるということでよろしいですか。
事務局	はい、その通りです。
村形委員	今のはリアルな紙の本の話ですけど、これから電子書籍を導入するとなると、たとえばクラスで使うとか、そういったことも検討することになっているのでしょうか。
事務局	コンテンツにつきましては、今の想定では児童生徒の朝読書や調べ学習に利用していただけるように、読み放題パックというものがございます。一斉に複数のタブレットから、図書館のホームページにアクセスしていただくことができるように考えておまして、タブレットや電子黒板を利用した電子書籍サービスに取り組む予定です。
村形委員	ありがとうございます。そこまで検討してくださっているのだなと思います。わかりました。あともう1つ、小中学校からの協力を得て学校のおすすり本特集を組むということなのですが、これは学校で保有している本で組み、そこで足りないものについては個別に貸出しをして、特集本のセットを組むという考えなのか、そこまでの検討はこれからですか。
事務局	基本的には市立図書館の蔵書でと考えております。学校でお持ちいただいて、万が一のことがあったらと考えますと、市立図書館の本で対応できればと思います。ないものについては購入検討をして、できるだけ希望に沿ったものを準備したいと思っております。
村形委員	本館内に組むということですね。わかりました。ありがとうございます。
大場委員	<p>「読書全力応援プラン」、すてきな言葉。今こそ、大事に取り組んでいって、児童生徒さんが本に親しめる環境を作る体制が、言葉からわかってくるような気がして、とてもうれしく思っております。その中で、交流図書館というのが面白いなと思っております。というのは、市立図書館に来てみましょうというふうになっても、親御さんが連れて来られる場合と、なかなかそれが難しい場合がありますよね。そういうときに「実は図書館にはこんな本があるんですよ」なんて口で言ったって、実感が伴わない。そういうときに、実際地下の書架なんか見せると子どもが驚いて、「これが本！」みたいな感じになって、また、自分の学校の文集なんかをそろっていると、すごく昔の文集であって感動が違うんですね。</p> <p>それから学校はお金がないと思いますので、そういうときにバス代をかけずに、市の車で連れてきてもらえるのは私はすごくいいなと思います。こういう本があるのを小さいときに見せておく、触らせておくということが、とても大事なのではないかなと思いますので、ぜひこの交流図書館というのも、大々的にはできないとは思いますが、2校と言わず、希望があればぜひ広げていただければと思います。また、小・中学校の校長会の先生方とも連携して、「こういうことをしていますよ」と、すべての学校に伝えていただくというのも、すごく大事なことじゃないかなと思っています。</p> <p>それから、今年度からのりぶ活なのですが、先ほどの課題、あるいは反省の中に、もう少し回数が多くてもいいのではないかというのがありました。来年度は2回目になるので、回数を少し多くするとしたならば、集まった生徒</p>

	<p>さん自身もこんな面白い本の読み方があるんだよという事を体験するような形でりぶ活を進めると、中身も充実してやりがいがあるし、本人自身も本をただ読むだけでなく、こんなことができるのかという話に繋がるのではないかと思います。</p>
前田委員	<p>全力応援プランとは本当にすてきなネーミングで、本当に学校を支えていただく仕掛けだなということで、大変うれしく思います。読み放題パックなんかも幾つかあると助かると思います。全力なので、もうちょっと幅広く、お届け範囲の指定は8年度に取り払っていただければ拡大する可能性があると思うので、検討をお願いしたいと思います。あと小学校と中学校の校長、両方経験しているのですが、中学校のカリキュラムを考えると命の学習等、朝読書をどうにか継続しているような部分もあります。ですから、小学校の頭が柔らかい時期にたっぷりと図書館がいろんなところを見せるだけで気持ちの部分でも違うと思うので、小学校にどんどん広げていただければと思います。中学校はやれる範疇で、並行しますので、今後ともよろしく願います。</p>
井上委員	<p>返却について、図書館職員が子どもたちの選んだ本プラスアルファでいろいろな本を持ってきて、返す時には学校で返すというところで、大量の本ではないにしろ、たとえば学校の技能技師さんに持ってきてもらうとなると余計な仕事だなどと言われるのではないのでしょうか。やはりプラスアルファで赤帽など輸送会社に頼むのはどうでしょうか。学校は、「利用したいけれど、返却が難しい」となるのではないのでしょうか。</p>
議長	<p>お届けするだけでも大変な決断だったと思いますが、やるからには返却までセットにするのはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>私も昨年3月までは教員でしたが、やっぱり教員が図書館に来るのは、勤務時間過ぎてから、または土日。何とか解消したいという思いがあります。これを考えたチームの1人として、返却だけでも先生方に足を運んでもらいたいのです。どんな本があって、どんな本を自分で使える、あるいは子どもたちにどんな本が紹介できるだろうかというのが分かります。先生方はコロナの影響もあったのか、団体貸出の仕組みそのものを知らない。ですから、「明後日まで30冊よろしく」などと言われ、いくら図書館でもすぐにはそりません。一旦貸出すると戻ってくるのは2週間後です。ですからそこをどうしたらいいかというところでのまず第一歩として、まず貸出のところだけは解消できないだろうか。私たち職員の調整を考えたときに、言うだけ言って何もできないのでは申し訳ない。何キロ以上というのは、確かにこれもどうかなどは思いますけれども、まず一年目やっていくのであればこれでいかせてもらいたい。あと冊数も今年度100冊を超えたのは蔵王一中だけです。あとは2桁の冊数ですから、これで十分対応できるだろうと思ひ、貸出の際は持っていくから、返却は先生たちに来てもらい、どんな本があるのか見てほしい。あと、今はまだ交渉段階ですが、技能技師の力をお借りするとありますが、そこは可能かどうかも含めて検討したいということです。だから全力応援プランは、みんなを巻き込んで全力で応援したいなという思いがあります。貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p>
事務局	<p>いろいろご意見ありがとうございます。今担当職員からお話ありましたけど、学校経験があるのでそういう視点で話してもらいました。図書館としてはやはり先生のご負担を少しでも本当にわずかですけれども、減らしたいという我々なりに緊張感を持って進めています。全力応援プランというネーミングからすると、徐々に全力応援とはなりますが、広げるだけ広げて何もできないってことは何としても避けたい。まずは少しでも先生方のご負担を減らしながら、我々ができる範囲でまず協力するというのは、子どもたちに本が届くような流れを何としても掴み取りたいという気持ちで、まずはこ</p>

	<p>れであたってみたいと思っています。返却につきましては、無責任な言い方で申し訳ないのですが、返却ボックスは貸出と違って分館でも本館でもどこに返してもらっても構わないですし、時間は貸出に比べれば、開館時間とかには制約されません。とはいえお忙しいところお越しいただくのですが、何とかまずはこういう形で進めさせていただけないでしょうかということです。この全力応援プランの案については、もちろん今後の修正もありという形ではあるのですが、去る2月4日の中学校の校長会、それから今日12日、小学校長会にて、学校教育課を通してこの資料の提示をお願いしているところです。</p>
井上委員	<p>学校の先生が図書館に来てほしいというのはわかりました。図書館職員の方も、貸し出した本がどのような反響だったか直接子どもたちから知るのも力になると思います。行きも帰りも図書館職員が関わってもらえたらいいなと思う。</p>
議長	<p>はい、提案自体は委員の皆さん賛成ということでぜひ進めていただきたい。ただ、ぜひこのような状況でこのように変えていくというような成果報告を都度お願いします。新しい取組、新しい計画を育てていくということで大変でしょうけれど、よろしくお願いします。</p> <p>では、これにて議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。これをもちまして私の議長を終わらせていただきます。</p>